

## 倉田地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 平成30年6月26日（火）19:00～20:20
- 2 場所 倉田地区公民館
- 3 出席者 地区出席者 32名（うち車座12名）  
市出席者 4名（深澤市長、乾危機管理局長、田中企画推進部長、  
安本地域振興局長）



4 テーマ 地域の防災力向上について

### 5 概要

（市長あいさつ）

地域づくり懇談会は、地域の課題についてざくばらんに意見交換し、今後の市政に反映させていく趣旨で開催している。倉田地区が今年度第一回目の懇談会となる。

今年からより自由活発な意見交換ができるようにと車座の形式になっているが、形にとらわれず多くの方に発言してほしい。

この4月から鳥取市は中核市となった。中核市の良い点をより出していけるよう頑張っていきたい。

倉田地区には優れた文化財がたくさんある。鳥取市の優れた資源を今一度共通理解しながら生かしていくことが大切だと考えている。

（地元）

本日の懇談会は「地域の防災力の向上について」というテーマをあげさせてもらった。

倉田地区は、千代川と八坂山に挟まれており、3年前には避難指示が出され、去年は避難準備情報が出されたということもあり、防災面の対策が急務だと考えている。

また、倉田地区自主防災会連絡協議会では、研修、防災訓練を計画、実施し、地域の防災

力向上に努めている。

以上のような理由で、本日の懇談会のテーマを防災力の向上ということで決定した。

(地元)

梅雨の時期は各地で大雨が降って被害が出るため心配している。昨年円通寺地区に避難準備情報が出された時は西円通寺の3分の1が避難した。その際、布袋工業団地の排水、あるいは排水ポンプの作動遅れのためか農地が水に浸かった。対策検討をお願いしたい。

避難準備情報と避難指示の基準を教えてほしい。事前にテレビやラジオでわかるようであれば知りたい。

(市長)

防災力を高めていくことは市政の大きな課題である。6月定例会市議会で地域防災力向上に関連した予算を計上し、議決をいただいた。防災資機材・小型ポンプ・自主防災会への支援制度も更に充実を図っていきたい。

水位上昇が予見される場合は早めの避難を心掛けてほしい。

(危機管理局長)

資料説明(「図1 避難勧告等の避難情報」、「図2 水位情報」、「図3 土砂災害警戒情報システム」)

洪水の時には河川水位、雨雲レーダー、上流の雨の降り方等を見ながら、土砂災害の時には県がインターネットでも公開している土砂災害警戒情報システムを監視して避難勧告等を出している。

図1 避難勧告等の避難情報

情報の種類	発表時の状況	住民に求める行動
避難準備・ 高齢者等避難 開始	<ul style="list-style-type: none"><li>●避難するのに時間がかかる 要援護者は避難開始</li><li>●人的被害が発生する可能性 がある</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●高齢者、病人、障がい者は早め に避難</li><li>●非常持ち出し品の準備</li></ul>
避難勧告	<ul style="list-style-type: none"><li>●避難を始めなければならない 状況</li><li>●人的被害が発生する可能性が 高まっている</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●避難所へ速やかに避難開始</li></ul>
避難指示 (緊急)	<ul style="list-style-type: none"><li>●切迫した状況</li><li>●人的被害が発生する可能性 が非常に高まっている</li><li>●すでに被害が発生した</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●確実に避難完了</li><li>●避難していない人は直ちに避難</li><li>●時間的余裕がない場合は直ちに 生命を守る行動</li></ul>

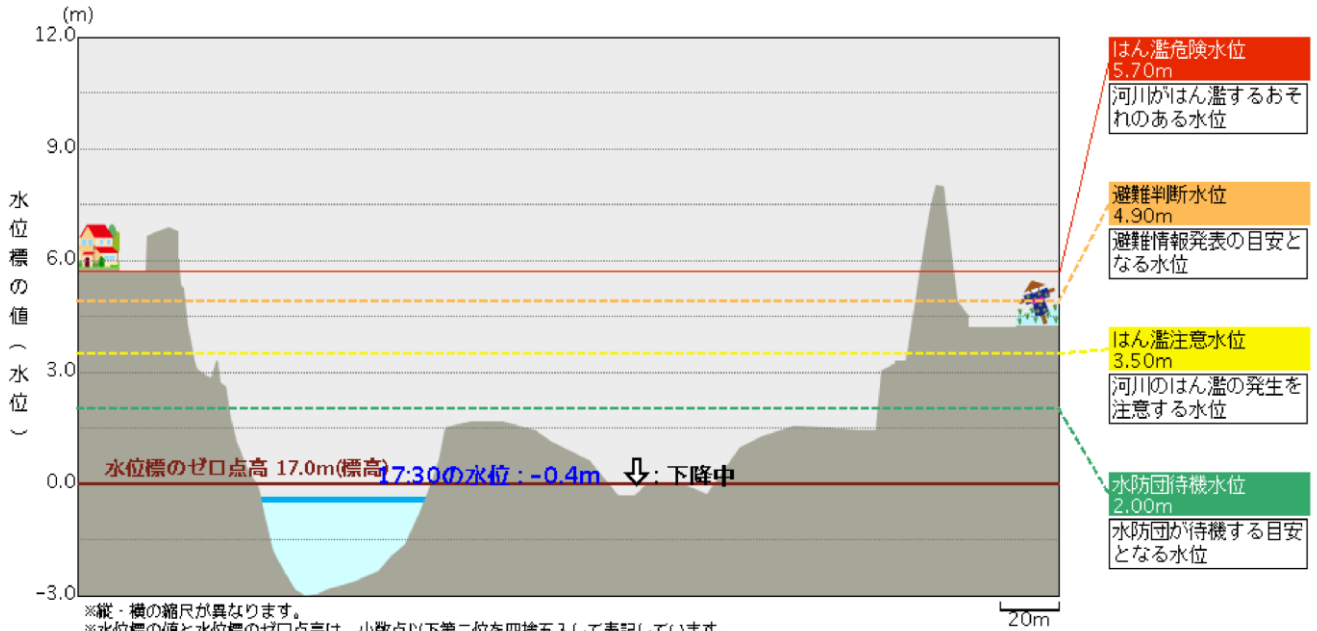
図2 水位情報

観測所:袋河原(ふくろがわら)

閉じる

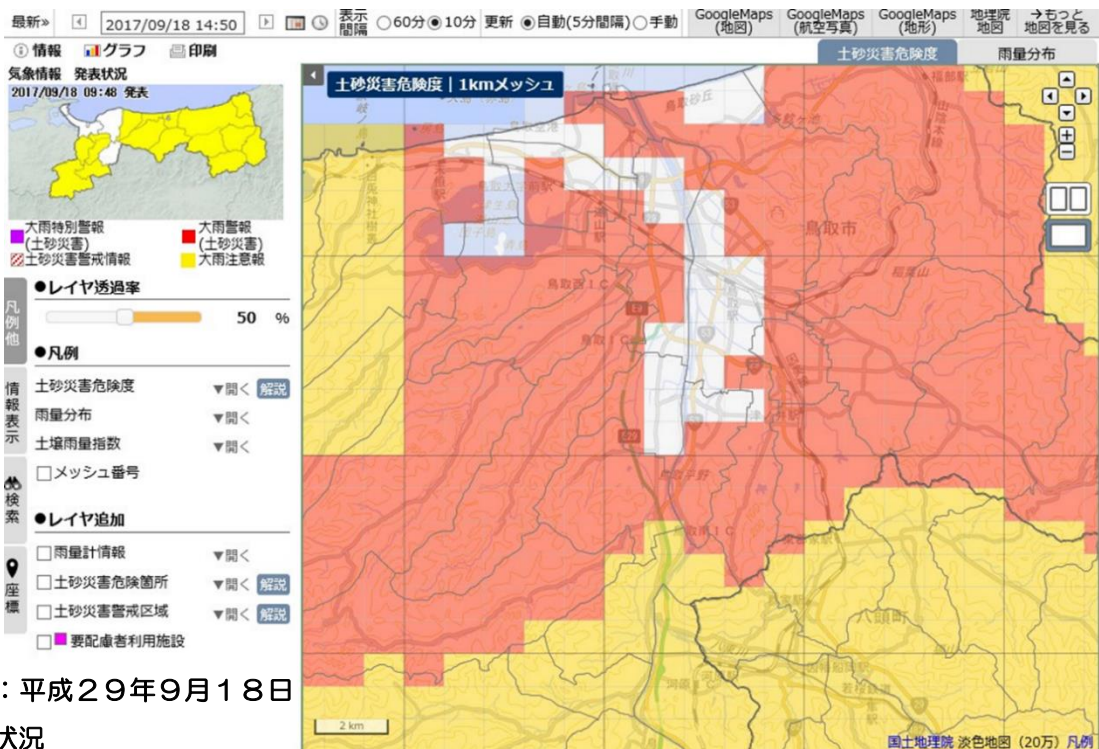
水位観測所付近の川の断面図		河川の水位の時間変化		位置	所在地	水位標のゼロ点高	雨量観測所
水系名	河川名	管理者		左岸15.00km	鳥取県鳥取市河原町袋河原大字袋河原字中古川448-2 (袋河原橋上流500m)	17.0m	智頭

水位に「水位標のゼロ点高」を加えると水面の標高になります。



河川の洪水予報と水位の関係について  
Compiled by FRICS

図3 土砂災害警戒情報システム (土砂災害危険度)



(地元)

倉田地区には、避難場所はあるが避難所はない。今後、倉田地区に避難所を作る計画はあるか。

(市長)

避難所は、現在ある公共施設を活用し、全ての災害に対応できる場所を指定しており、新たに避難所を作ることは難しい。

(危機管理局長)

(「図4 倉田地区内の緊急避難場所一覧」を見ながら説明)

指定避難所は、全ての災害の適用性がなければいけないと法律で定められている。地震や津波には適用性があるが洪水や土砂災害には適用性がないなど、一部の災害に対応する施設は指定緊急避難場所としている。

千代川が破堤したときに水に浸かる施設は洪水の適用性はないことになるが、その建物に上階がある場合は、垂直避難を行うことで、適用性がない建物でも避難することができる。

図4 倉田地区内の緊急避難場所一覧

区分	名称	収容人数	適用性			
			洪水	土砂	地震	津波
指定緊急避難場所 (屋内)	倉田体育館	290	×	×	○	○
	倉田小学校	810	×	×	○	○
	倉田地区公民館	100	○	×	○	○
指定緊急避難場所 (屋外)	倉田小学校(グラウンド)	4,505	×	×	○	○
	鳥取市営サッカー場「バードスタジアム」	10,380	×	○	○	○
	千代川倉田緑地(千代川倉田スポーツ広場)	112,000	×	○	○	○

※地区内に指定避難所はありません。

(地元)

バードスタジアムは表中で屋外となっているが、壁でおおわれているような場所について屋内と定義することはできないか。

(危機管理局長)

客席等が、構造上、屋根・壁に覆われた状態になっていないので、地域防災計画では屋外と位置付けている。

(地元)

大雨が降った際、八坂山近隣部落では山崩れが起きないか心配している。急傾斜地に堰堤を作る計画が進んでいて、橋本部落も堰堤工事をしてもらったが、まだこれだけでは不十分を感じる。今後堰堤を作る計画があれば教えてほしい。

(地元)

現在小学校の裏の川向こうで工事が始まっている。小学校への土砂流出対策として工事はありがたいが、騒音問題もあるので、工事完了の目途を教えてほしい。

(地域振興局長)

現在、県の事業で堰堤工事用道路を作っているところで9月上旬までの工期となっている。堰堤を2か所作る計画で、全体としては平成31年度に完成する計画と聞いている。

八坂山の急傾斜地について、工事が必要な箇所については県も把握されていて、市も地域の要望を受けて県に要望している。県内で工事が必要な箇所のうち完了しているのは全体の4分の1くらいで、緊急度が高い箇所から行っている。急傾斜地の状況に変化があれば、鳥取市都市環境課又は鳥取県まで報告いただければと思う。

(地元)

水害が起きる度に災害復旧工事がついてまわる。災害復旧工事の受益者負担を軽減してほしい。また、千代川は一級河川であり国土交通省の担当であるが対応は市役所が行っている。市役所が窓口となり業務を行っているプロセスを説明してほしい。

(市長)

国土交通省には、従来から堤防の嵩上げや堰の改修など、河川改修について一所懸命にやってもらっており、市から要望も行っている。

受益者負担を一挙に無償にするというのは難しいが、今年度から上限を定めたり負担を軽減する取組をしていこうと考えている。災害復旧に伴って農家の方の負担が大変だというのは承知しているので、できるところから受益者負担を少なくしていける仕組みにしていこうと努力している。

### 農地・農業用施設の災害復旧に係る農家負担の見直しについて

#### ①市単独災害復旧事業の農家負担の軽減

〔現行制度〕 農地災 15%、農業用施設災 10%

〔見直し〕 農地災 10%、農業用施設災 7%

#### ②農業用施設の1戸当たり農家負担限度額を設定

〔現行制度〕 農家負担率 4.5%

〔見直し〕 農家負担上限額を35,000円/戸とする。

※国庫補助率の嵩上げ基準を準用して上限額を設定。

#### ③補助農地災の限度額超過部分の単独災害の適用

〔現行制度〕 補助限度額超過分は農家負担率 50%

〔見直し〕 補助限度額超過分の農地負担率 10%

※見直し単独農地災負担率 10%

（地元）

国土交通省が川底を浚える、中州の整備をする、逆流を防ぐための堰を作る等の策を何も講じずに、災害の度に受益者負担を求めるのはどうかと思う。

（市長）

国土交通省にも、地元の現状を理解していただくために、様々な機会をお願いをしていきたい。

（地元）

防災行政無線での放送は、いつ、どのような時にされるのか。窓を閉め切っている時は、放送が聞こえづらいが、一度の放送に何回繰り返して放送するのか、放送前に緊急音を鳴らすのか教えてほしい。

（危機管理局長）

防災行政無線は、命に係わる事態が発生した場合に鳴らしている。平時は動作確認のため日に2回チャイムを鳴らしているが、かなり音量を下げて放送している。緊急時には最大音量で流れるようになっている。防災行政無線が鳴っていたら、何か命に係わる危険性があるものと判断し、テレビ等でも情報を集めてほしい。0857-21-6100に電話をかけると防災行政無線で流れた内容を聞く事ができるので活用してほしい。

放送はできるだけ繰り返すようにはしているが、全市域に同時多発的に勧告等が出る場合は難しい。是非注意して放送を聞いていただきたい。

緊急音については、総合防災マップに書いてあるように事態に応じて定められている。水害等の避難勧告の際には緊急音が鳴らないが、武力事態の際には特殊な音が鳴る。

(地元)

全国の問題だとは思いますが、消防団員確保に悩んでいる。手当を上げるなど何か良い案はないか。また、ポンプ車の更新サイクルはどうなっているのか教えてほしい。

(市長)

消防団員確保は全国でも喫緊の課題となっている。若い世代の方も団員として頑張っておられるが、人口減少、少子高齢化ということもあって人員の確保は難しい状況。消防団の報酬について、合併時9つの市町村でまちまちだったが鳥取市に合わせて一本化した。手当を上げるのも一つの策かもしれないが、やはり地域防災の要は消防団であるという認識を持ってもらい、若い世代に加入していただけるような環境づくりが必要と思う。

ポンプ車の更新も十分ではないと思う。できる限り古いものは更新していけるよう努力していきたい。

(地元)

山白川の樋門について新設計画があると聞いたが、詳細を教えてほしい。

(地域振興局長)

2020年6月の出水期までには今より少し上流に電動化した樋門を作る計画を県が持っているようだ。具体的作業に入る段階になれば情報を流されると思う。

また、倉田排水機場について、現在ポンプ1台(0.5t/秒)が稼働しているが、2020年6月を目標に2台(0.8t/秒)増設予定で、今年の秋から工事にかかる計画と聞いている。

(地元)

倉田地区だけの話ではないので、県に強く働きかけてほしい。

(地元)

ポンプ能力があがっても指示は人が出すので、指示系統の見直しが必要と思うがどうか。

(市長)

排水樋門の操作について、実施要領の再確認を研修等で改めて徹底していきたい。

(地元)

倉田地区には、千代川、山白川、八坂山という大きな3つの自然がある。

千代川について、台風で大水が出たら思わぬところが崩れたりするが、復旧工事に取り組んでもらっている。

千代川下流の農有地の問題について、農林水産省中国四国農政局から現地を確認しにきたが、調査結果がどうなったのか地元はわからない。結果について地元の説明してほしいとは

言っているが、市からもお願いしてほしい。

山白川から千代川へ排水するポンプ能力が弱いため増設してもらっている。県は非常に協力的にやってくれている。

八坂山はレッドゾーン指定であり軟弱な地盤。大雨のたびに土砂が流れるため、現在対策工事してもらっている。市からもよろしく言ってほしい。

因幡霊場を通る市道が八坂山を横断している。この谷間の1か所から土砂が八坂村に流れて来ていて、用水路の正常な水位が保てず、下流の米里地域にも影響している。現在県に現地調査してもらっているが、市も一緒に状況を見てほしい。

道路について、八坂線が非常に良くなったので感謝している。

橋本部落のところに、土砂崩れ防止のために擁壁を作ってもらった。南に家が4軒あるが、この部分は傾斜地に入らないということで工事がされていない。ここも調査してもらって、この4軒分も同じように守ってほしいと地域では考えている。

(市長あいさつ)

いろいろご提言をいただいた。一挙には対応できない課題もあるができる限り取り組んでいきたい。

地域防災力の向上は鳥取市全体の大きな課題。日本の国土を考えると災害とどういう風に付き合っていくかが求められている。治水・治山・道路整備いずれも大切。厳しい財政状況の中ではあるが、国・県に要望していきたい。いろいろな取り組みを進める中で、地域の防災力を向上させていきたいと思っている。